

そう思ったら息をすることすら苦しくなった。

「レイン・...」

ぎゆっと抱きしめた。起こしてしまうならそれでもいい。 しかしよほど疲れていたのか、レインは夢から帰ってこなかった。

「大丈夫。こんな月並

放みなことしか言えないけど、私が傍にいてあげるよ」

180